



団体紹介

CATEGORY

子育て環境日本一

府民交流フェスタ > 団体紹介 > 子育て環境日本一 > 特定非営利活動法人そよかぜサポート

特定非営利活動法人そよかぜサポート

目次

- 30年以上、地域の子育てをサポート
  - 子育て・ふれあいの場提供で地域のお手伝い
    - 母と子の教室
    - ナラダ・ママ
    - もどり場だんだん みんなのおうち
    - こそだて広場てふてふ
    - 認可外保育園 まゆあい
    - だんだん文庫
    - そよかぜナースリー
    - その他
    - 「ありがとうカフェ」(認知症カフェ)
  - 異世代交流の拠点、「もどり場だんだん みんなのおうち」
    - 子育て環境の充実、各世代の孤立化解消がカギ
    - 子連れでゆっくり、安くて美味しいランチができる場所
    - 「だんだん」は、ありがとう＝感謝の意味
    - 利用者の声
    - だんだん文庫の取り組み
    - ありがとうカフェ(認知症カフェ)

団体紹介

フリーワード

検索

子育て環境日本一

府民活動

文化創造

新産業創造・成長

災害・犯罪等からの安全・安心

シェア

Twitterでシェア

facebookでシェア

30年以上、地域の子育てをサポート

「子育てするなら京田辺、住むなら京田辺」。そんな地域になることを願い、「愛」「信頼」「絆」を信条に活動しておられるのがNPO法人そよかぜサポート。地域再生を目指す人々(点)が増え、その活動の中で繋がり生まれ、(線)、線が重なり面になる。そんな命を育てる地域のお手伝いをしておられます。

子育て・ふれあいの場提供で地域のお手伝い。

そよかぜサポートの多岐にわたる活動の中から、いくつか具体的に紹介します。

**母と子の教室** 子育て中の「疲れた」「しんどい」を、「この子と出会えて嬉しい」「少し楽になりました」に変えるためのお手伝いとして、2歳になるまでの期間、子ども同士、親同士の交流の場を提供しておられます。

**そよかぜナースリー** 1、2歳児が、お母さんと離れて、週2～5日通います。自由遊びの中で自立に向かいお友だちと過ごしたり、自然が息づいている大きな森に抱かれて身体を存分に遊べます。

**ナラダ・ママ** ナラダ・ママはお友達や身内の人に頼めないSOSにお役に立てたらと自己研鑽を積みながら待機している有償ボランティアグループです。

**もどり場だんだん みんなのおうち** 3世代交流の場としてイベント・教室を開催し、ランチやだんだん文庫、ありがとうカフェ(認知症カフェ)で年代を越えた交流を行うことができます。

**こそだて広場てふてふ** 子育て中の親子の交流と遊び場・情報提供の場

**その他** その他にも学校法人同志社の教職員と学生の為の託児サービスと、地域のさまざまな方々を手助けする役割を担っておられます。

**「ありがとうカフェ」(認知症カフェ)** 認知症との付き合いは私たちの身近なテーマです。認知症の人や介護する家族・認知症のことを知りたい・学びたい人が気軽に集えるカフェです。3世代で交流して高齢者支援と子育て支援、みんなが支え合える場所です。

**だんだん文庫** 学校が終わった子どもたちが参加しやすいよう夕方に開催しています。大型絵本や手遊び・歌遊び、色々なお楽しみを用意しています。大人向けの本もあります。「もどり場 だんだん」は軽食が扱えるので、遅くなったから軽食を食べてもらおうようなこともできれば良いと考え、コロナ禍でまだ実現していません。」と村坂さん。新しい取り組みを通じて、利用者の方が増え、世代間の交流が進むことを願い、活動を続けておられます。



異世代交流の拠点、「もどり場だんだん みんなのおうち」

子育て環境の充実、各世代の孤立化解消がカギ

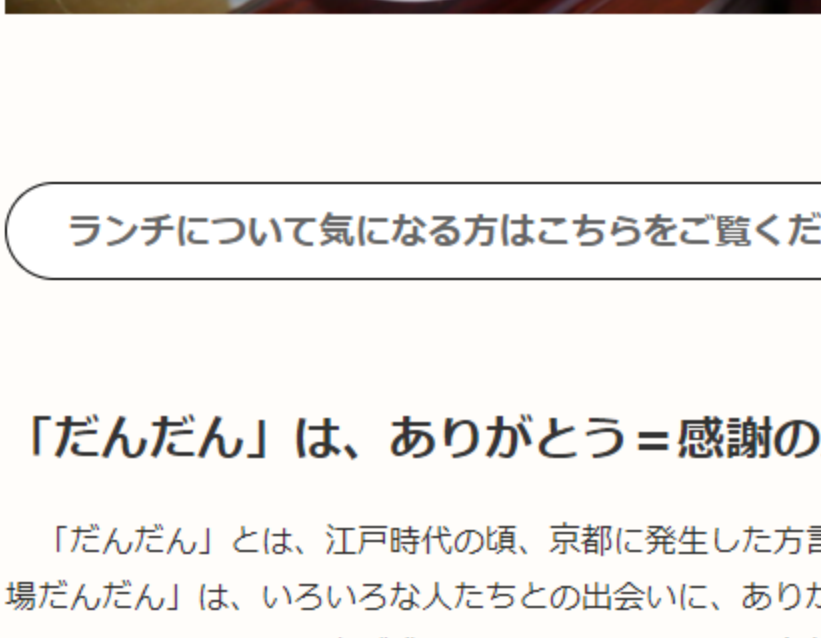
少子高齢化、核家族化が進み、ワンオペ育児、高齢者のみの世帯などの問題を抱えているのは、日本国内どの地域でも同じなのかもしれません。京田辺市でも、高齢者の多い住宅地と新しく入ってこられた子育て世代の住宅地の世代の隔りは強く、施設も児童館・親子教室・高齢者施設など、年齢による縦割りが多い状況。昔のように3世代・4世代で子育てを支えることができないが、そんな課題意識が「もどり場だんだん みんなのおうち」のスタート地点でした。

**「もどり場だんだん みんなのおうち」**は、そよかぜ子育てサポートの事業の一つ。3世代交流の場としてイベント・教室を開催し、ランチやだんだん文庫、ありがとうカフェ(認知症カフェ)で年代を越えた交流を行うことができます。空き家を再生した施設は、レンタルスペースで趣味時間のため集まったり、ヨガ教室が開催されたりなど、活用方法はさまざま。1人でも親子でもお友達同士でも、年齢に関係なく誰でも楽しい、食事をしたり、手作り品や野菜の買い物もできます。

乳幼児を抱え行き場のない子育てに悩むママたち、人生のキャリアはあるものの、健康や社会的居場所に不安な高齢者たち、誰かの役に立ちたいと思っている人々など、さまざまな思いが集まって、お互いを支え合える場になっているんですね。



子連れでゆっくり、安くて美味しいランチができる場所



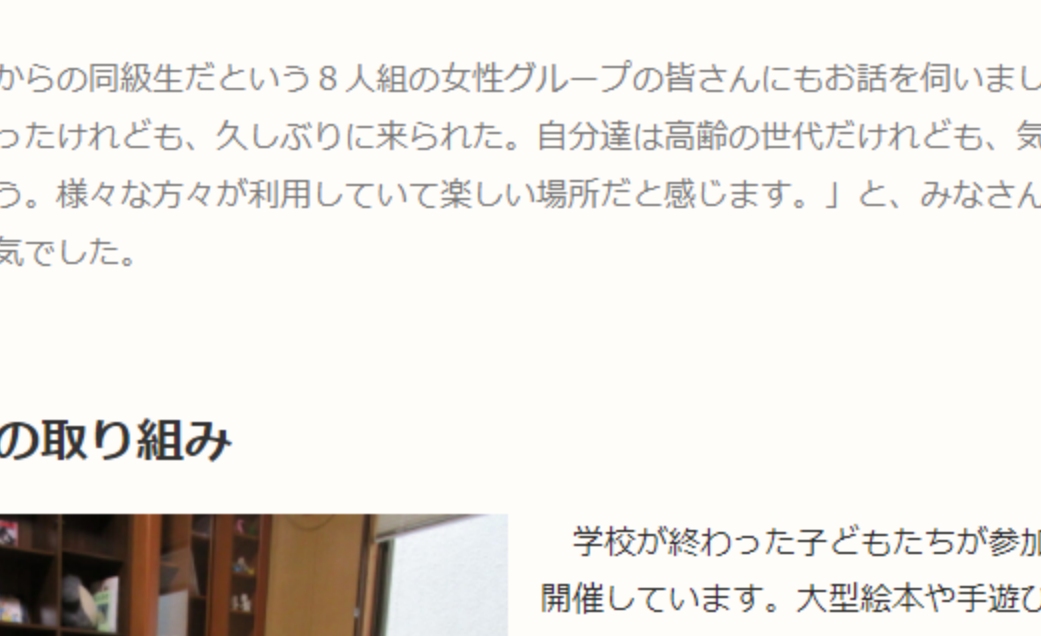
「もどり場だんだん みんなのおうち」では、管理栄養士による、地元の野菜をたっぷり使ったヘルシーなランチを提供。なんと、**500円**という、お気兼ねな価格が好評です。みんなのおうちスタッフが心を込めて野菜を育てており、メニューは、その日収穫した野菜で決まります。価格がお手頃な理由は、「いろいろな人に何度も利用してほしいから。」と代表の村坂さん、食事を交えて交流することで、柔らかく、楽しい雰囲気交流できるそう。これを目当てに繰り返し利用いただくお客様も多いようです。

ランチについて気になる方はこちらをご覧ください！→

「だんだん」は、ありがとう＝感謝の意味

「だんだん」とは、江戸時代の頃、京都に発生した方言で、日本海側や西日本に伝播していったとか。「もどり場だんだん」は、いろいろな人たちとの出会いに、ありがとう・大丈夫だよ・心配いらないよと、温もりのある思いやりの場にて、この拠点が成長していくことを願って名付けられました。

利用者の声



4人の女性仲良しグループの皆さんにもお話を聞くと、「若いお母さん世代も気軽に使えるし、子供が遊んでも目が届く範囲だし、他の人の目も入るから、安心じゃないかなと思います。こんな場所がなかなかないので、良いと思う。様々な方々が利用していて楽しい場所と感じます。」と、おっしゃっており、その場にいる皆さんも納得の様子。

また、小学校からの同級生だという8人組の女性グループの皆さんにもお話を伺いました。「コロナですと利用できなかったけれども、久しぶりに来られた。自分達は高齢の世代だけれども、気軽に集まれる場所なので、良いと思う。様々な方々が利用していて楽しい場所と感じます。」と、みなさん談笑されていて、とても暖かい雰囲気でした。

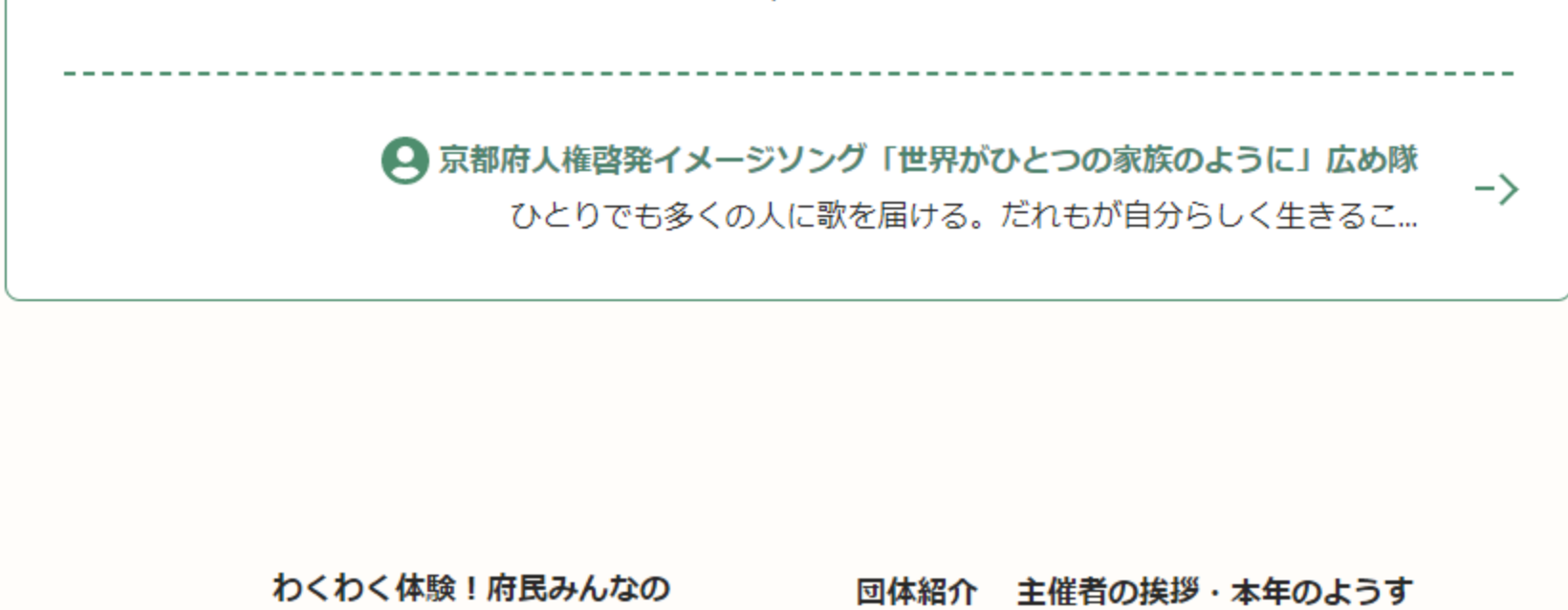
だんだん文庫の取り組み



学校が終わった子どもたちが参加しやすいよう夕方に開催しています。大型絵本や手遊び・歌遊び、色々なお楽しみを用意しています。大人向けの本もあります。「もどり場 だんだん」は軽食が扱えるので、遅くなったから軽食を食べてもらおうようなこともできれば良いと考え、コロナ禍でまだ実現していません。」と村坂さん。新しい取り組みを通じて、利用者の方が増え、世代間の交流が進むことを願い、活動を続けておられます。

ありがとうカフェ(認知症カフェ)

認知症との付き合いは私たちの身近なテーマです。認知症の人や介護する家族・認知症のことを知りたい・学びたい人が気軽に集えるカフェです。3世代で交流して高齢者支援と子育て支援、みんなが支え合える場所です。



もどり場だんだん みんなのおうちのHPはこちら！→

非営利活動法人そよかぜサポートHPはこちら！→

◀ **日本ボイスアウト京都連盟** なるう、一人前。少年が、1人の人間へと確立していく教「育.. ▶

📍 **京都府人権啓発イメージソング「世界ひとつの家族のように」** 広め隊 ひとりでも多くの人に歌を届ける。だれもが自分らしく生きる... ▶

わくわく体験！府民みんなの「府民交流フェスタ」！

Facebook

団体紹介 主催者の挨拶・本年のようす

フェスタ概要・経過

クイズ・じゃんけん大会

会場紹介コンテンツ もうひとつの京都

お問い合わせ

※団体の活動についてのご意見・ご質問は、団体紹介ページにて各団体に直接お問い合わせください。